(平成27年 11月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水産物全般	<p>11月の総入荷量は、前年に比べると冷凍魚は前年並みとなったが、鮮魚が漁獲量の低下により入荷が減少したことや、加工水産物も原材料の減少や価格上昇等により入荷が減少となったことから、全体として7%の減少となった。価格については、鮮魚が入荷減少により全般に値上がりし、水産加工物も原材料の値上がり等の影響で値上がりした結果、水産物全般の取扱金額は前年並みとなった。</p>
(区分別の動向) 鮮 魚	<p>11月の鮮魚の総入荷量は、前年同月と比べ8%下回ったため、平均単価は9%上回った。</p> <p>品目別には、めばる、びんちょう、かます、けんさきいかなどが30%以上前年の入荷を上回ったが、多くの魚種で入荷は前年を下回り、特にさんま、まいわし、天然ぶり、するめいかは漁獲不振により大きく減少した。養殖ふぐは入荷が増加する時期となったが、産地の在池量が少ないことから価格は前年を30%上回っている。生ずわいがには、中国、韓国の需要が拡大した影響で、ロシアからの輸入が激減しており、価格は前年まで比較的低価格だったものが高騰している。</p> <p>12月にはぶり類、よこわ、さば、さわら等多くの魚が脂の乗る時期となり、また、あんこう、たら、かに、ふぐ、かき等寒さが厳しくなるにつれ美味しくなるので、鍋料理をご賞味いただきたい。</p> <p>年末に向けては、天然魚は天候次第であるが、養殖魚はふぐを除いて安定した入荷が見込める状況である。</p>
冷 凍 魚	<p>11月の冷凍魚の総入荷量は、前年同月並みであったため、平均単価は前年並みであった。</p> <p>品目別には、冷さばは、主体であるノルウェー産の需要の減退により冷さば全体で入荷は12%下回った。冷えびは、価格が下がったため順調に消費され、さらに年末需要も旺盛で入荷は32%上回った。</p> <p>12月は、年末需要のため、冷かには高値となり、えびは大型が不足気味で値上がりが予想されるが、ほとんどの輸入魚は現状の相場が続くものと思われる。</p>

<p>加工水産物</p>	<p>11月の加工水産物の総入荷量は、前年同月と比べ8%下回ったことや、加工原材料が全般に値上がり傾向にあることから、平均単価は9%上回った。</p> <p>品目別には、値下がりした塩銀さけ、開干さんま、ゆでたこが入荷を伸ばし、値上がりした塩べにさけ、開干あじは減少した。ちりめんは需要が好調で入荷は16%上回った。11月6日に解禁となったずわいがには、入荷がゆで丸かにかが41%、ゆでせこがにかが22%前年を下回る出足となり高値で推移している。年末商材ではいくらが年末需要が旺盛で入荷が伸長したが、漁獲の減少で高値となった棒たら、塩かずのこは入荷が減少した。</p> <p>正月用の食材の見通しでは、本ちゃん（国内産）の塩紅さけは価格が高騰となり、棒たら、塩かずのこ、いくら、かまぼこ等は若干値上がりとなりそうである。</p>
--------------	--

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	和歌山，山口で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ12%下回ったが，小型サイズの比率が高くなったことから，価格は3%下回った。
ま い わ し	愛知，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ33%下回ったため，価格は6%上回った。
さ ば	韓国，千葉で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ3%下回ったが，高単価の韓国産が入荷の増加により値下がりし，また低単価のごまさばの入荷が増えたことなどから，価格は7%下回った。
す る め い か	北海道，青森で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ40%下回ったため，価格は19%上回った。
太 物	総入荷量は輸入物の減少が影響して，前年同月と比べ4%下回ったため，価格は15%上回った。
ぶ り	鹿児島，長崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ4%下回ったが，養殖物の価格が低下した影響を受け，価格は6%下回った。
さ わ ら	三重，鳥取で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ15%下回ったため，価格は13%上回った。

品 目	市 況 の 概 要
(冷凍魚主要品目) 冷 さ ば 冷 するめいか	<p>入荷量はノルウェー産の需要が低下していることや、国内では原料となる大型のさばの漁獲が少なかったことから、前年同月と比べ12%下回ったが、ノルウェー産の価格の低下による影響で、価格は9%下回った。</p> <p>前年に続き漁獲が低調となっており、入荷量は前年同月と比べ8%下回ったため、価格は5%上回った。</p>
(加工水産物主要品目) 塩 さ け 類 塩 か ず の こ	<p>入荷量は前年同月並みであったことから、価格は前年並であった。種類別では、塩紅さけは、国内産が大幅な減産となったことから価格が高騰し、さらにロシア産原料の製品も値上がりとなった。一方アラスカ産は豊漁となり、サイズが小ぶりながら価格を下げて入荷が増加した。塩銀さけは、チリ産を主体に価格が下がり、入荷も増加となったことから、紅さけの減少分を補った。</p> <p>漁獲の減少により原卵の価格が値上がりした影響で、入荷量は前年同月と比べ13%下回ったため、価格は18%上回った。</p>